

公務員試験の概要

試験の概要

公務員試験は大きく分けて、業務遂行に必要な知識・適性を見る一次試験と、人間性を見る二次試験で構成されます。

●一次試験

教養試験(一般知能、一般知識など)

専門試験(大卒試験や技術系職種、保育士などの資格職で課される場合が多い)

適性試験・適性検査

論文・作文試験 など

●二次試験

面接(集団面接、個人面接など)

各自治体の試験の特色

国家公務員・地方公務員の違いに加え、職種や自治体によって、試験の内容には違いがあります。

受験する自治体の HP で受験案内を確認しましょう。

・**国家公務員、東京都、特別区** 独自の問題を使用。過去問が公表されているので、どんな問題が出されているかチェックしましょう。

・**その他の自治体** 上記を除いたほとんどの自治体は過去問を公開していませんが、大まかに分けていくつかのパターンがあり、傾向が大きく変わることは少ないようです。

また、「公益財団法人 日本人事試験研究センター」が、全地方公共団体のうち 88.4%に問題提供実績があると公表しています。そのほか、SPI3 などの民間の試験を活用している自治体もあるようです。

日本人事試験研究センターの提供する試験の特徴

上記センターの HP によると、市役所などの自治体へ提供される試験問題は、以下の 5 種類の基本試験に適性試験などを組み合わせたものが多いようです。それぞれの特徴を押さえておきましょう。

・基本試験の特徴

Standard〈標準タイプ〉I：大卒向け、II：高卒向け

(知識分野 20 題/知能分野 20 題、五肢択一式、解答時間 120 分)

Logical〈知能重視タイプ〉I：大卒向け、II：高卒向け

(知識分野 13 題/知能分野 27 題、五肢択一式、解答時間 120 分)

知識分野での「自然に関する一般知識」の出題はありません。知能分野(文章理解、判断・数的推理、資料解釈)が重視されます。

Light〈基礎力タイプ〉人物重視試験、技術系職種や資格免許職種向け

(社会への関心と理解 24 題/言語的な能力 18 題/論理的な思考力 18 題、四肢択一式、解答時間 75 分)

難度は Standard-II や Logical-II よりもさらに易くなっています。

※試験案内で「試験時間 75 分」と記載されていた場合、light が出される可能性があります。

以上